

○調査基準

<p>1) 葉いもち 1 ほ場 <u>25 株</u>について調査する。 下記の程度別の<u>被害株数</u>を数え調査用紙に記入する。</p> <p>無・・・病斑が見られない (病斑面積率 0%) 少・・・病斑がわずかに見られる (病斑面積率 0.5% 程度) 中・・・病斑がかなり見られる (病斑面積率 2% 程度) 多・・・かなり病斑が見られ軽いずり込み症状が見られる (病斑面積率 10% 程度) 甚・・・下葉は枯死し、ずり込み症状が見られる (病斑面積率 50% 以上)</p>	<p>7) イネミズゾウムシ 1 ほ場 <u>25 株</u>について調査する。 下記の程度別の<u>被害株数</u>を数え調査用紙に記入する。</p> <p>無・・・食害が認められない。 少・・・被害葉率が 1～30%の株 中・・・被害葉率が 31～60%の株 多・・・被害葉率が 61～90%の株 甚・・・被害葉率が 91%以上の株 (1 株全ての葉のうち何枚が食害を受けているか)</p>
<p>2) 穂いもち 1 ほ場 <u>25 株</u>、全ての穂について調査する。 下記の発病状況の概評を参考に<u>発病穂率</u>を算出し、調査用紙に記入する。</p> <p>発病穂率 0%・・・穂いもちが全く認められない 発病穂率 5%・・・枝梗いもちがわずかに認められる 発病穂率 10%・・・一見して枝梗いもちが認められ、 首いもちもときには認められる 発病穂率 25%・・・一見して枝梗いもちが多く認められる 発病穂率 50%・・・枝梗いもちが多く、首いちは中程度 発病穂率 75%・・・枝梗いもち、首いもちも きわめて多い 発病穂率 100%・・・すべて白穂</p>	<p>8) セジロウンカ 1 ほ場 <u>25 株</u>について調査する。 稲株をたたいて水面に落下した<u>成虫</u>を数え、<u>株当たり虫数</u>を調査用紙に記入する。</p> <p>または、捕虫網での 20 回すくい取り法により種類別に調査を行い、調査用紙に記入する。</p>
<p>3) 紋枯病 1 ほ場の <u>25 株</u>について調査する。 下記の程度別の<u>発病株数</u>を数え調査用紙に記入する。</p> <p>無・・・全く病斑が見られない 少・・・病斑が第 3 葉鞘まで見られる 中・・・病斑が第 2 葉鞘まで見られる 多・・・病斑が止葉の葉鞘まで見られる 甚・・・病斑が穂首まで侵され止葉の枯死が見られる</p>	<p>9) トビイロウンカ 1 ほ場 <u>25 株</u>について調査する。 稲株をたたいて水面に落下した<u>成虫</u>を数え、<u>株当たり虫数</u>を調査用紙に記入する。</p> <p>または、捕虫網での 20 回すくい取り法により種類別に調査を行い、調査用紙に記入する。</p>
<p>4) 白葉枯病 1 ほ場の <u>25 株</u>について調査する。 <u>発病株数</u>を数え調査用紙に記入する。</p>	<p>10) コブノメイガ 被害の平均的な 1 ほ場の <u>25 株</u>について<u>上位 3 葉の被害巻葉数</u>を数え、調査用紙に記入する。</p>
<p>5) 籾枯細菌病 1 ほ場の <u>25 株</u>全ての穂について調査する。 <u>発病穂数</u>を数え調査用紙に記入する。</p>	<p>11) カメムシ類 畦から 1～4 列の稲を長さ 50 m 歩いてカメムシの数を数える。=<u>50 m²当たりの虫数調査</u> カメムシの種類についても分けて調査用紙記入する。</p>
<p>6) 苗立枯病・バカ苗病 育苗箱での発生状況を調査する。 <u>全育苗箱当たり何箱発生が見られたか</u>を数えて調査用紙に記入する。</p>	<p>または、捕虫網での 20 回すくい取り法により種類別に調査を行い、調査用紙に記入する。</p>